

超弾性ワイヤー式爪矯正治療法について

はじめに

この説明同意書は、これからの説明を分かりやすく記載したものでこの治療の必要性と内容、メリット、デメリット等について説明します。なお、超弾性ワイヤー式爪矯正治療法については、自費診療のため、当院の臨床倫理委員会の審議に基づき、承認を得ています。この治療を受けるかどうかは、あなたの自由意思で決めてください。当院では正しい情報に基づいたあなたの選択を尊重します。

治療の目的と治療の必要性

巻き爪・陥入爪に対して超弾性ワイヤーで矯正する治療法です。超弾性ワイヤーとはニッケル・チタン合金で出来ている形状記憶合金のワイヤーです。ワイヤーの元に戻ろうとする性質を利用し、陥入爪・巻き爪の治療に使用します。

治療の適応について

陥入爪及び湾曲爪（巻き爪）です。爪が親指の先から 2mm 以上伸びた状態で治療しますので、まずはそれまで爪を伸ばしていただく必要があります。治療前に爪を切ってしまい、短くなってしまった場合は治療が延期になることがあります。また、爪水虫で爪がもろくなっている状態や爪が厚い場合など、爪の状態によってはこの治療の適応にならないときもあります。

治療の方法

- 1) 爪に穴をあけてワイヤーを通し、固定します。
- 2) ワイヤーで矯正した状態で 1～2 ヶ月爪を伸ばします。爪の伸びる速さは個人差があるので、患者様によっては 3～6 ヶ月爪を伸ばす必要があります。
- 3) 爪は伸びるので 2 ヶ月に 1 回程度はワイヤーを付け替える必要があります。
- 4) ワイヤーは固定しますので、日常生活は特に支障はありません。
- 5) マニキュアもワイヤーの上から塗っていただいても問題ありません。

治療により期待される効果とリスク

治療により巻き爪が矯正され、爪が平らになります。爪の厚さやワイヤーで矯正していた期間によっては再発する場合があります。

予想される合併症と必要な医療行為

爪が十分に伸びていないと、ワイヤーを爪に通す際にワイヤーで皮膚を傷つけてしまうことがあります。また、爪を長めにしていただくため、ストッキングや靴下に穴があいてしまうこともあります。爪の状態(もろさ)によってはワイヤー装着中に爪が割れる、折れてワイヤーがとれてしまう、ワイヤー自体が折れてしまうことがあります。

また、ワイヤーによって爪が平らになると爪のかどやワイヤーの断端が隣の指に刺さって傷ついてしまうことがあるので、保護が必要になることがあります。

考えられる他の治療法(代替手段)とリスク

フェノール法、テープ法、ガター法があります。フェノール法とガター法は手術なので痛みが伴うこと、爪が細くなるリスク、再発するリスクがあります。テープ方法は簡便ですが、効果がでるまでに時間がかかります。

治療を受けないことによる考えられる結果

症状が進行する可能性があります。

費用について（自費診療）

超弾性ワイヤー式爪矯正治療法は保険の適応はございません、この治療に伴う初診料、再診料及びそれ以外の投薬についても全て自費診療となります。

セカンドオピニオン

他施設の医師に現在の病状や治療方針について、意見を求めることができます。その際は、必要な紹介状や資料を準備しますのでお申し出ください。

同意の撤回について

同意書を提出された後でも、お申し出があれば治療（検査）を中止することができます。その際は、同意の撤回に関する文書を用意いたします。